

アジアがん登録フォーラムへの参加



雑賀 公美子

国立がん研究センター がん対策情報センター

アジアがん登録フォーラムは2018年3月19日から21日まで、タイ・バンコクにて開催されました。国際がん研究機関(IARC)のフレディ・ブレイ氏の世界のがん統計の講演に始まり、IARCが主導となって行う世界中のがん登録の発展を目指したプロジェクト(GICR: Global Initiative for Cancer Registry Development)の紹介がありました。このプロジェクトは、IARCが世界の複数の地域にハブを作り、それぞれのハブが中心となってがん登録の発展が遅れている国に対してトレーニングや支援を行うものです。アジアのがん登録ネットワークの活動状況について、ハブ地域となっているインドからの報告に加え、協力施設であるタイ、中国、韓国の国立がんセンターから各国のがん登録の実態とGICRへの協力体制の紹介がありました。日本も国立がん研究センターが協力施設となっていて、松田智大先生がフィリピン、ベトナム、カンボジア、ミャンマーへのトレーニングや共同研究での支援状況が紹介されました。日本からは、がん登録データを利用した研究の紹介として、国立がん研究センターの齋藤英子先生が、胃がん予防および検診の効果を予測するためのマイクロシミュレーションモデルに関する研究を、私のがん登録データを利用してがん検診の精度管理を行う研究の進捗を紹介しました。ブルネイ、ミャンマー、インドネシア、ベトナム、フィリピンから報告があり、国全体でがん登録の体制整備を行う上で、医療体制や経済事情を含んだ課題や、データ利用に関する個人情報保護の観点などが整理されました。➤

登録精度の高いがん登録の紹介として、オーストラリア、米国、イタリア、韓国からすでに確立している各国の登録の精度や体制の紹介、がん対策およびがん研究へのがん登録データ利活用の紹介があり、アジア各国の参加者にとってはそれぞれの国のがん登録の今のレベルと今後実施すべきことを認識できる内容でした。最終日は、今後のアジアのがん登録ネットワークを強力に継続的に実施するための方針についての議論がされ、IARCとハブ地域であるインドおよび、日本、タイ、中国、韓国の協力施設が中心となって、課題の整理と支援の可能性および研究の協力体制を整備することの確認をし、次につながるフォーラムとなりました。

タイでの開催ということで、東南アジア特有のアバウトさが会議の運営にも現れていて、事前には2日目の午後の発表と聞いていた齋藤英子先生と私の発表が、プログラムを当日受け取ると初日の発表に変更になっていて、2人大慌てでスライドの最終確認を行うというハプニング付きでした。栃木県立がんセンターの大木いずみ先生も参加され、昼食はおいしいタイ料理バイキングで満足の内容でしたし、会場のタワナホテルのある通りには手ごろなマッサージのお店がたくさん並んでいて、会議以外でも楽しく過ごすことができました。



アジアがん登録フォーラムのようす



常時
受付中

当会への寄付

活動を支援して下さる方を募集します